

Title	中期経営計画が企業パフォーマンスに与える影響について
Sub Title	
Author	腰越, 祐也(Koshigoe, Yuuya) 岡田, 正大
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2009
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2009年度経営学 第2424号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002009-2424">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002009-2424</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	岡田 研究会	学籍番号	80830436	氏名	腰越 祐也
(論文題名)					
「中期経営計画が企業パフォーマンスに与える影響について」					
(内容の要旨)					
<p>環境変化に伴い経営計画が変化を遂げている中、持続的な企業価値向上のために企業はどのような中期計画を策定すべきか、といった問題意識を持ち研究を行った。</p> <p>まず、経営計画の概要や歴史的な変化とその背景をまとめた上で、本研究の範囲を中期計画策定プロセスと、他の計画や報酬制度との関係に限定し、理論・既存研究の整理を行った上で、中期計画の諸属性が中期の企業業績を向上させるという仮説を構築した。そして、一部上場企業への質問票結果を説明変数、対象企業の3年間時価総額変化率を被説明変数に設定し、回帰分析による検証を試みた。</p> <p>検証の結果、企業業績を向上させる属性は「実行可能性を高めるための統制手段」、「実行を想定した策定プロセス」、「従業員への経済的報酬」であることがわかった。また、企業業績を低下させる属性は「計画策定へのTOPの高い関与」、「重点項目間での優先順位の決定」であることがわかった。そして、「情報獲得の重視」、「数値目標のストレッチ」、「柔軟性」、「ビジョン・長期経営計画との整合性」は企業業績に無関係なことがわかった。</p> <p>次に、企業業績に影響を与えていた項目間の関係性、業種別の回帰分析結果、個別企業事例といった、いくつかの観点から考察を行った。</p> <p>結論は、①企業は現状の中期計画策定プロセスを「実行」という観点で再点検すべきであること。②トップ重視の中期計画策定プロセスを採用する場合には、外部環境情報を十分に獲得し計画の合理性を高めるとともに、策定プロセスや結果に対するトップの経済的報酬体系を整えなければならないこと。③外部環境情報取得や柔軟性確保が今後さらに重要になる可能性があること。の3点である。</p> <p>本研究の限界は、研究範囲を限定したことなどを挙げる。</p>					